

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872100409		
法人名	株式会社 ありが園		
事業所名	グループホーム ありが園	ユニット名	(A棟B棟共通)
所在地	茨城県ひたちなか市東石川3139-2		
自己評価作成日	令和4年10月19日	評価結果市町村受理日	令和 5年 3月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0872100409-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様ひとり一人が「できること」「したいこと」をできる限り対応し、介護と看護の連携を図り、心身の機能を維持するとともに一日一日を大切に、そして家庭的な雰囲気の中で楽しく穏やかに生活していただけるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地に立地し、併設する同法人のサービス付き高齢者向け住宅や、隣接するカフェ、デイサービスなどとの連携体制を整えている。利用者それぞれが希望するスタイルでのコーヒータ임을提供するなど、管理者は利用者一人ひとりの状況に対応した個別支援を意識している。一方で、言葉遣いの配慮等で職員への指導を心掛け、管理者、職員一同が、家庭的で個人を尊重し大切にす支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や事務室等、職員の目のつく場所に掲示している。また職員が理念を名札に入れて携帯しています	職員は社訓や理念をネームホルダーに入れて常に携帯し、ひとり一人に寄り添い利用者が自立した生活ができるよう理念にある個別支援、自立支援を意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の流行により、家族との面会にも制限をしているため、地域との交流もできていない。感染状況をみながら今後はリスクに配慮したつながりをもてるようにしていきたい	コロナ禍でボランティアの受け入れなどは中止しているが、近隣住民とは散歩のときに挨拶を交わしたり、菊の鉢植えを届けてもらうなどの交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症の影響により、地域との交流場を設けることが困難であり、地域貢献につなげることができていない現状にあります		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記記載のとおり、運営推進会議も中止せざるを得ない状況。各委員様にはその都度会議の中止案内と報告書の提出を行っています	書面での開催をしている。事業所の利用者状況や取り組みは、資料を持参して報告しているが、委員からの意見や提案をもらうまでには至っていない。	事業所の報告だけでなく、外部委員に電話や他方法で意見を聞く機会を設け議事録に残す事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市町村の介護相談員の来園は感染症の流行により感染防止の観点から中止となっています。介護相談員については十分な感染対策と職員のみでの聞き取りでの対応で再開の希望を出し、今後意見交換をしていきたいと考えています	市の担当課とは電話、メールでのやり取りのほか、窓口に出向いて情報提供している。市の介護相談員が毎月2名来訪し、利用者の話を聞いている。管理者は市の事業者懇談会や地域包括支援センター主催の会議に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園の指針を整備し、対策を検討する委員会を3か月に1度開催し、園内での研修会を実施し委員会での報告とともに身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます	身体拘束排除のための指針を作成し、定期的に委員会を開催している。管理者が随時気が付いたときに職員に指導しているほか、外部研修や内部研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内で実施している研修会で虐待について正しく理解し、全職員が常に心掛け、虐待のないケアを実践するように徹底しています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内で実施している研修会で虐待について正しく理解し、全職員が常に心掛け、虐待のないケアを実践するように徹底しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。また法改正等による契約内容の変更についても同様に機会を見て説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置するとともに、ご家族が来園した際にご要望との聴き取りを行っています。場合によっては、法人全体での協議報告を行っています	小さなことでも、家族等に連絡を入れて確認し、信頼関係の構築を図っている。家族等からの希望でメールでの連絡方法を取り入れた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や、月に1回行っているスタッフ会議での意見交換、協議報告を行っています	職員からは申し送り時に意見がでている。会議の時は議題に沿って指名して意見が出やすいようにしている。管理者は職員が出勤したら必ず声をかけるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法改正に則した就業規則の改定を行っている。また、職員全員の面談を行い給与や職場環境についての面談を行っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度事業所内研修を行っている。また、法人としての研修や関係機関主催の研修会に随時参加するなどしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内事業所間での交流。地域包括支援事業所主催の研修会等に参加しサービス向上のための情報収集を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との会話をすることにより、不安要素を読み取り安心して生活できる環境づくりを行っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の複雑な心境を考慮した対応を行っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が必要としている支援を管理者、看護師、ケアマネージャ、介護スタッフと話し合い支援の見極めを行っています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴をヒントにスタッフと共有できる話題を見出し、関係性を構築することをしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の様子をお伝えするなどし、ご家族との信頼関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中から得た情報をご家族に伝え、支援の実現ができるよう努めています	入居時の聴き取りや家族等からの情報や日々の会話の中から情報を得てフェイスシートを作成している。コロナ禍ではあるが状況を見て家族等との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アセスメントをしっかり行い、ご利用者間のトラブルがないよう職員間で情報を共有し、安心して生活できるよう支援をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご利用者様との関わりを持つ時間をを作り、希望や意向の把握に努めています。困難な場合は、表情などから意向を把握するよう努めています	利用者に声をかけて、表情や目の動き(反応を見る)などから会話を広げている。思いを表出できる利用者に対しても日々の活動を無理強いすることなく、利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントをしっかり行い生活歴を把握し、継続的にアセスメントを行っています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の朝夕の申し送り時に、日々変化する心身状況について把握をしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様が自分らしく安心した生活ができるよう、本人・ご家族の思いを聴き取り、介護計画に反映しています	毎月モニタリングを行い、基本半年で見直しを行っている。利用者の状態等に変化が生じた場合には随時見直しを行っている。家族等が見てもわかりやすく、職員も支援しやすい介護計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の大切さを各職員に伝え、情報共有するとともに、介護計画にも反映させています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を踏まえ、柔軟なサービスに心がけています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	従来、運営推進会議を通じて、情報収集をし、地域の方とともに協力を得ながら支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療機関との契約により、定期的の実施。緊急時は往診による対応をいただいています	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回、訪問歯科診療が週1回ある。医療行為を行う際にはかかりつけ病院より看護師が来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護職員を配置し、常にご利用者様の健康管理を行っています。また、訪問診療ドクターへ相談できる体制をとっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の対応をご家族と一緒にしています。病院へは情報提供(看護サマリー)を行い、定期的に連絡。早期退院に向け支援をしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族様の意向を主に医師と看護師、介護職員が連携し、ご家族様に納得が得られるような看取り介護を実施しています	契約時に、重度化した際に事業所のできる支援について説明し、同意書にて同意をもらっている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時のマニュアルにより、適時に勉強会を実施し実践力を身につけています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと年に2回避難訓練を実施しています。地震災害にも備え食料品の確保等も行っています	コロナ禍で時期がずれてしまい、予定通りの訓練ができていないが、夜間想定訓練も予定されている。訓練後の反省会を行っているが課題を明確にするまでには至っていない。	事業所としての課題を明確にし万が一の災害に備えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーが保てるよう、言葉かけを行っています	呼称は苗字にするなど、利用者に敬意有る言葉使いに配慮している。管理者は職員に言葉使いを指導している。トイレなどの誘導時であからさまにならないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の状況に応じた、答えやすい声掛けをすることで、本人の自己決定を促すようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを大切に考え、希望に沿った支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髮は訪問理容を活用し、女性の方は、ネイルや口紅等のメイクを行うなどしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様が食したいものを取り入れ、行事を企画するなどしています。その際には、一緒に準備、片付けを行っています	季節ごとの行事食を提供したり、誕生日にはケーキをデコレーションするなどしている。イベント時にはバイキング形式にしたり中庭でバーベキューを行うなどして食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給量はチェック表により毎日確認をしています。水分補給の点では、飲みたい飲み物の選択をいただいています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、個々の合った歯ブラシや舌ブラシ、スポンジ等を活用し、定期的に入っている訪問歯科の受診の助言のもと個別にケアを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のある方、曖昧な方、ない方に合わせて誘導を行っています 排泄パターンを把握し、間隔に配慮しトイレへ誘導することで失禁の減少に繋がっています できるだけトイレでの排泄を促しおむつの使用を少なくするようにしています	利用者の排泄パターンを把握し誘導して、夜間も含めてトイレでの排泄に努めている。退院時はおむつ使用の利用者も、声掛けをしてトイレでの排泄を促し、布パンツになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と相談し、排便の状況の有無と排便日がない日の日数を確認し、下剤を服用しながら解消しております		
	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとり一人のお湯の温度を確認しながら利用者様が気持ちよく入浴できるよう支援しています。洗身などはできるだけ利用者様自身に行っていたら供養、支援をしています	ゆずや菖蒲湯で季節感を出したり入浴剤を使用して楽しい入浴になるよう工夫している。リフトを使用しての入浴ができ、利用者全員が浴槽で窓から電車を見ながらゆっくり楽しめる。長湯の好きな利用者や短時間の入浴の利用者に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせた就寝時間にて支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の状況に合わせて看護師と介護士で相談し合いながら調整を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前、午後に体操やレクなどを行い利用者様に楽しんでいただけるよう支援しております。塗り絵や様々な物品を使用しながら行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の影響により、外出などができない状況にあります。天気の良い日などは施設内の敷地を散歩されたり気分転換を図っています	利用者の希望に応じてドライブに出かけて、車窓から景色等を見ている。近隣を散歩したり、中庭でお茶を飲みながら外気浴をするなどの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持などは紛失などのトラブルの原因となるため行っておりません。金銭管理の方はご家族様にお任せしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、ZOOMによる面談の支援をしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用で使用しているフロアでは各季節ごとに、飾りつけを設置して季節感を感じていただいています。家庭的な雰囲気ですっきりと毎日を楽しんでいただくように配慮しています	リビングは明るく、掃き出し窓から中庭に入りができ広々としている。玄関は広く明るく、全体に木目調で落ち着いた雰囲気となっている。階段のスペースには利用者の明るい表情の写真に心とむ温かい空間となっている。トイレは各ユニットに3か所設置され、跳ね上げ式の手すりを設置し、トイレの自立支援につながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方に合わせた座席の配慮をしながら、利用者様の環境をなるべく変えず固定して支援しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れのあるものをご家族様に持参していただき、居室に置く、ベッドの配置などご本人様が暮らしやすく居心地のよい環境づくりに配慮しています	管理者は火器やナイフなど危険物以外の使い慣れた物を持ち込むように説明している。ベッドや家具など利用者が自宅で配置されていた通りに配置する為、利用者毎にベッドなど向きを変えるなど、生活しやすくする工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレ・浴室など日々の生活で入居者様がわかりやすいように、目印や看板などを設置しています		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム ありが園

作成日 令和5年 3月13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の実施について、感染症の流行により開催は見送り報告書でのやり取りとしていた。報告書は民生委員や自治会長、包括支援センターへ直接渡しに行っていたがその際のやり取りの内容を次回の運営推進会議に活かせていなかった。	コロナ感染症も現状落ち着いているため来年度からは運営推進会議を実施。 参集することでより活発な意見交換を行う。	自施設から外部に発信し開催をしていく。 今年5月より開催し多くの委員やそして家族を招待し今後の施設運営に対しての様々な意見交換をしていく 自施設に活かしていく。	2ヶ月
2	24.3	利用者様一人ひとりの情報・今までの暮らしなどの細かなアセスメント不足があった。ADLの部分など現在の状況などより細かな情報も不足していた。	利用者様一人一人の今までの暮らしを理解しその利用者様にとって住みやすい暮らしを提供する。	日々の記録を細かく記入していく。ADLなどの情報を再度収集していき、職員間で利用者様一人一人のカンファレンスを行い利用者様の情報共有をしていく。 そして入所前の情報などは家族様にも協力していただき今までの暮らし方などの情報を聞いていく。	5ヶ月
3	35	避難訓練について、1回目は予定通り開催することができたが施設内のコロナ感染の蔓延もあり2回目の訓練を予定通り行うことができなかった。また前回の訓練の課題の抽出が不十分でだった。	今後も消防署の協力のもと年に2回の避難訓練を実施し、その都度課題を出していき次の訓練に活かしていく。	今後、定期的に年に2回の避難訓練を定期的に行っていく。 全職員が本番を想定した訓練を行っていく。 設備の使用方法や手順などをマニュアル化し職員間で統一していく。尚、訓練を行ったあとは必ず反省会を行い課題を明確にしていく。今後は梅雨の時期や感染症が流行する時期を除いた時期を選考し確実に訓練が実施出来るようにしていく。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。